



2024年新語・流行語大賞 から思ったことですが...

● **渡辺 信之**

国労東日本本部 執行副委員長



12月2日、「現代用語の基礎知識」選ユーキャン2024年流行語大賞が発表されました。

年間大賞の「ふてほど」、トップテンの「裏金問題」・「界限」・「初老ジャパン」・「新紙幣」・「50－50」・「Bling－Bang－Bang－Born」・「ホワイト案件」・「名言が残せなかった」・「もうええでしょう」となりました。

このなかで直ぐに意味が分かったのが、自民党の「裏金問題」、渋沢栄一の1万円札「新紙幣」、大谷翔平さんの「50－50」ぐらいでした。テレビを見ていないと分からない言葉だらけで、世代間の違いをつくづく感じました。

時代の流れで言葉の意味が変化していくのは分かりますが、本来の意味が違ってしまふのはいかなものかと痛感します。例えば「役不足」、正：本人の能力に対して与えられた役目が軽すぎる。誤：本人の能力に対して役目が重すぎる。

言い間違えているものとしては、「的(まと)を射(い)る」が本来の言い方なのに、「的(まと)を得(え)る」と習慣化しています。放った矢や弾が的に命中することから、的確に要点をとらえることなのですが、道理にかなっていることを意味する「当を得る」と混同して使われるようになりました。

社内でも新語が使われるようになり、「横くしを刺す」(部署の壁を超えて)、「生来に向けて種をまく」(設備投資)・・・うまいこと言うなあと感じますが、いま職場では「柔軟な働き方」が広がりました。会社と社員の間での「柔軟な働き方」の意味をどうとらえるのかが気にかかります。

